

愛猫の血圧

意識していますか？

人と同様に、猫の高血圧は外見からは分かりにくく、**長期間見逃されることがあります。**

異変に気づいたときには、**すでに高血圧による影響が現れている**ことも少なくありません。

多くの場合、**突然の視力低下、食欲不振、脱水**などの症状をきっかけに異変に気づきますが、これらは既に高血圧が進行した状態でみられるサインです。進行した高血圧症は、**慢性腎臓病、眼内出血**、さらには**脳への影響**を引き起こす可能性があります。

普段からよく様子を見て、**食欲や飲水の量、体重の変化**など、ちょっとした違いに気づいてあげましょう。早めに気づくことで、**高血圧や他の病気の早期発見**につながります。

あなたの猫は

大丈夫？



あなたの猫は：



甲状腺機能亢進症
ですか？



7歳以上(シニア)
ですか？



脱力感や
けいれん発作が
みられますか？



慢性腎臓病
を患っていますか？



視覚障害や眼内出血などの
症状はありますか？



猫の

病気の
サイン

高血圧を
見逃すな！

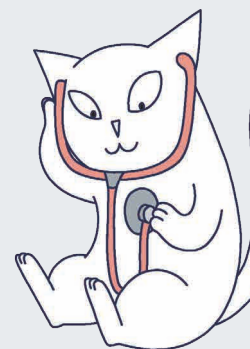


上記の**いずれかに**
当てはまった場合は、
動物病院へ

いずれかに当てはまる場合は、
動物病院で血圧測定について
相談してみましょう。
愛猫の状態に合わせて、
適切なケアや治療をご案内します。



獣医さんに
相談しよう！



見えない高血圧も
チェック✓
で見えてくる。

年齢を重ねるにつれて、
飼い主様が気づきやすい病気もあれば、
気づきにくい病気もあります。

定期的な血圧測定などにより、
早期発見・早期治療につなげることが重要です。



セバ・ジャパン株式会社

bah 物産アニマルヘルス



高血圧症の

猫について

猫も人と同様に、**高血圧**などさまざまな病気にかかることがあります。高血圧は人では高齢になるほど多くみられる病気ですが、あまり知られていないものの、猫も高齢になると高血圧になりやすくなります。

健康な猫の血圧は一般的に、80～140mmHgの範囲とされています。**血圧が持続的に160mmHgを超える場合、高血圧症と診断**されます。

7歳以上の猫の約40%が

正常値より30%以上血圧が高く、
高血圧症であることが判明しました。*

どのような猫で

注意が必要？

高血圧は、特にシニア期の猫で多くみられます。**7歳以上の猫では、約40%が高血圧と**されています。

また、**慢性腎臓病**や**甲状腺機能亢進症**などの病気を持つ猫では、高血圧症を発症するリスクが高くなります。

年齢が上がるにつれて
発症しやすくなり、
平均発症年齢は
13歳とされて
います。*



** ISFMガイドラインより。

猫の健康を守るための

血圧チェックの大切さ

血圧測定は人と同様に行われ、猫の足やしっぽに小さなカフ（腕帯）を巻いて測定します。

簡単に短時間に行うことができ、痛みもほとんどありません。
数分で終了し、多くの猫が問題なく受けることができます。

約9割の猫で、
10分以内に
測定が終わります。*



そのため、**7歳以上の猫や、腎臓病・甲状腺の病気がある猫**では、少なくとも**年に1回の血圧測定が推奨**されています。

高血圧症の

猫の治療方法

猫の高血圧を治療することは非常に重要です。なぜなら、高血圧が原因でさまざまな臓器に生じる障害を予防または軽減することで、猫の生活の質を向上させることができるからです。

獣医師は、猫の高血圧症治療を処方することによって血圧を下げるができます。

治療開始後は**定期的に血圧を測定し、必要に応じて投与量を調整**します。**生涯にわたり治療を継続する**場合があります。

高血圧症だけでは

ありません

高血圧症は単独で起こるだけでなく、**慢性腎臓病**や**甲状腺機能亢進症**など、他の疾患と関連していることがあります。

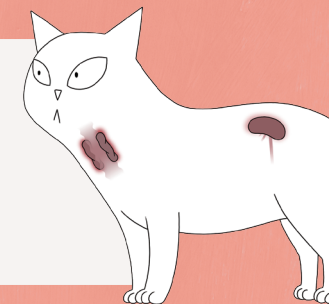
猫の慢性腎臓病

慢性腎臓病は特に**高齢の猫**に多くみられ、**腎臓の重要な働きに影響を与える**病気です。その結果、尿量が増え、薄い尿をするようになり、排尿回数も増えることがあります。こうした水分の喪失を補うため、水を多く飲むようになることもあります。

そのほかにも、**食欲の低下**や**体重減少**、**嘔吐**、**元気がない**、**ぐったりする**などの症状がみられることがあります。



高血圧症の猫のうち、
約3頭に1頭は
慢性腎臓病または
甲状腺機能亢進症を
併発しています。*



猫の甲状腺機能亢進症

甲状腺ホルモンが過剰に分泌されることで発症する病気で、**高齢の猫に多く**みられます。ホルモンの過剰により代謝が亢進し、**さまざまな健康問題を引き起こす可能性**があります。
主な症状としては、**体重減少**、**多飲・多尿**（お水を多く飲み、尿の回数が増える）、**嘔吐**や**下痢**などがみられます。また、**被毛の状態が悪くなったり、脱毛**がみられることもあります。



*Sparkes et al, 'The Mercury Challenge': feline systolic blood pressure in primary care practice – a European survey J Feline Med Surg, 2022 Oct; 24(10): e310–e323.